

# アルミ輸出は新地金、二次合金減少

## LM E相場、中国の動向などが焦点

橋本金属  
・アルミ 橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

四月前半は、三月のユーロ圏PMI改定値は総合指数が五四・〇に下方修正されたが、一カ月ぶりの高水準をつけ、サービス部門も五四・二に下方修正されたが、八カ月ぶりの高水準だったと、米エネルギー情報局(EIA)が二〇一五〜一六年の米国内の原油生産見通しを引き下げたことから原油が五三ドル台まで急騰した事、欧州経済の回復見通しやそれによるユーロ高、などのプラス材料もあったが、中国国統計局が十五日に発表した第一四半期の国内総生産(GDP)伸び率は、前年同期比で七・〇%だった。需要の低迷が響き、昨年第四四半期の七・三%から減速し、六年ぶりの低成長となったと、三月の中国貿易統計で輸出が一五%減と予想の一二%増を大幅に下回り、輸入も内需の弱さを反映し、前年同月比一二・七%減となったことを受けてLM Eアルミ相場はDOWN、四月十五日時点で、七九〇・五〇ドル(現物後場買)と月初価格から一〇ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、四月の中国HSBC製造業PMI速報値は四九・二に低下、一年ぶりの低水準、四月の中国HSBC製造業PMI改定値は四八・九に下方修正、一年ぶり低水準だったと、三月の中国主要七〇都市の新築住宅価格六・一%減と二月の五・七%減から下げが加速したことなどマイナス材料もあったが、中国人民銀行、預金準備率を引き下げ、一兆元の資金供給見込んだこと、四月の独IFO回響指数は一〇八・六に上昇、予想の一〇八・四を上回ったと、四月の米耐久財受注は前月比四%増加、予想の〇・六%増加を上回ったこと、中国国務院、就業率の安定した上昇を重要目標に設定し、新たな雇用促進策を発表したことなどを好感しUP、五月十一日現在でLM Eアルミ相場(現物後場)は一、八五二・五〇ドルと後半スタート価格から二ドルUPしてのスタートとなった。

### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一・〇九→一二・〇〇円

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・五%減の八七万八、四八八台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(除く)は前年比五%増の一九万八、三七一台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・七%増の六万九、八八七戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比四三・二%減の一五五t、二次合金が三七・

二%減の一、二八t、前月比でスクラップが六〇%増の九、二五t、アルミ缶が一五二・八%増の二、九九t。  
※一五年一月からスクラップがスクラップとアルミ缶に仕分けされたため、前年との比較ができず前月との比較。

輸入

輸入は新地金が前年比六・三%増の二万七、三四〇t、二次合金が六・七%減の八万二、二八四t、スクラップが一〇・九%増の八一七t、合金スクラップは六〇・二%増の五、五二〇t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一%減の一七万九、二〇二t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一〇・四%減の六万五、二五九であった。

■概況

〔※「自動車生産」(自動車販売)「住宅着工数」については、昨報で掲載のマンスリーリポート①参照〕  
アルミニウム二次合金 同合金地金等生産実績) 生産は前年比一〇・四%減の六万五、二五九tと六カ月連続マイナス。出荷は五・七%減の六万八、六五二tと一三カ月連続マイナス。内 出 荷先は鋳物〇・七%増、ダイカスト、鉄鋼六・二%減、一%減、押出一三・五%減、鉄鋼六・二%減、合金地金メーカー一〇・五%減。

〔アルミ圧延・押出品生産数〕

一%減の五カ月振りマイナス。一七万九、二〇二t。

板類

①缶材II四一万九、二一三t (一・〇%増) スチール缶の減少等により缶材はマイナスとなった。一方、ボディ材は、ビール系飲料は不振であったが、ボトル缶(主にコーヒ缶)の好調及び一部コーヒ缶(日本コカコーラ・ジョージア)のアルミ化による需要増があり、前年のマイナスからプラスに反転。

②自動車一四万七、〇二八t (二・八%増) 板材としては二年連続でプラス。国内乗用車生産台数は減少傾向であるが(四〜三二期の生産台数II七三万四一千台、前年同期比三・九%減)、アルミパネル材を採用する主に高級乗用車等の輸出増加があった。また、買い替え需要が旺盛であったトラック架台の需要増も奇与。

③輸出二二万〇、九三八t (三四・九%増) 前年のマイナスからプラスに反転。二〇万t超えは四年ぶり。東南アジア向けの需要が回復したのに加え、円安による輸出環境の好転や海外関連工場への素条輸出の増加があった。(六面へ続く)

(四面より続く)

押出類

①建設四八万六、五六五ト(七・九%減)  
新設住宅着工戸数の減少を受け(四く二月期の着工戸数一八万〇、五八三戸、前年同期比一・七%減)、前年のプラスからマイナスに反転。二〇一四年一〜三月が消費増税前の駆け込み需要で高かったことも影響した。

②自動車一三万三、八〇四ト(一・四%減)  
国内乗用車生産台数と連動し、三年ぶりにマイナス。

【見直し】

・自動車は生産が前月に続き減少の六・五%減。ただ四月の国内販売台数も前年比五%増と久々のプラス、今後の動向に期待。販売が八カ月ぶりにプラス、輸出も二・八増とプラス。

今月も生産台数が減少しているが販売が八カ月ぶりプラス、輸出もプラスで、この流れが五月も続くか今後の動向に注目。

・新設住宅着工数は前年比〇・七%増。季節調整済年率換算値で九二万戸(前月比一・七%増)と前年比で一二カ月ぶりにプラス。季節調整済換算でも二カ月連続プラスに転じた。

・前月に続き自動車生産は減少するも販売は久々のプラス。ただ二次合金は生産も小幅減少、出荷は相変わらず減少。

今後大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないとの見解。

・アルミ圧延・押出品生産数

ポトル缶コーヒーの好調や、アルミパネル材を採用する主に高級車等の輸出増加、海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により好調。行楽シーズンに向けてのアルミ缶需要増もあり堅調推移するとの見解。

ただ押出は住宅、自動車生産の慢性的な低迷から減少が続く。

・輸出 長期的な円安やLMEアルミの上昇から割安玉の不足から地金、二次合金、スクラップ全て大幅減。

・輸入 LMEアルミの上昇過程での実需買いを受けて、地金、スクラップ共にプラス。

前記を踏まえアルミスクラップ需給は引き続きタイトとの見解。

【価格・為替予想】

今月は、アメリカの利上げ時期、中国の景気動向に左右される。

米FRBの最近のFOMCで六月利上げを推奨している委員がいたことから一時NYダウが下落するなど利上げの六月説、九月説、来

年説などの様々な憶測がでてきている。有力は九月説がマーケットのコンセンサスではあるが、いまだ六月説の可能性も排除できない。

中国景気動向については、当局はGDPの減少を受け、金融緩和策、景気対策、雇用対策など様々な手を打った。またマーケットもそれを好感。ただそれに対する効果が現時点では不透明であり、それによってマーケットは大きく揺れ動く。

それらを踏まえた五月のアルミ価格は、米FRBの利上げ時期が九月以降に後退し、中国経済指標が好転した場合、五月高値のもう一段高の二、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合は一、九〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合もう一段安値の一、七五〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて再び六月説も台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題でのユーロ安から五月中もドル高傾向がづくのではないかと。

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は一・九円台。下値は特に新規材料難の場合、一・二円台と予測。(TTM)

為替は、米FRBの利上げについて六月から九月にずれ込むとの認識はコンセンサスを得たが、好調な米経済指標やギリシャ債務問題でのユーロ安から四月中もドル高傾向がづくのではないかと。

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は一・九円台。下値は特に新規材料難の場合、一・二円台と予測。(TTM)  
メーカースクラップ購入価格は据え置き、プラス五円と予測している。

六%減少の可能性も

中国の二五年鉄鋼消費-CIISA

中国鉄鋼工業協会(CIISA)の王利群副会長は十四日、中国の二〇一五年の鉄鋼消費は前年比六%減となる可能性があるとの見方を示した。

中国の二〇一四年の粗鋼消費は三・四%減と、一九八一年以来三三年ぶりに減少した。

王副会長は業界会合で「鉄鋼消費は」今年も六%減少と、マイナスの伸びになる」と述べた。

オーストラリア・ニュージーランド銀行(ANZ)は先週、中国の消費について、今年は四%減、二〇一六年は二%減となるとの見通しを示した。